

【答弁】 装備品は、夜間活動における安全確保のためのヘッドライト、林野火災等に対応するための背負い式水のう(シエットシューター)を購入した。活動服などは、経年劣化等により交換が必要となった団員に対し、速やかに支給している。

消防施設の整備は、防火水槽の修繕・消防ポンプ積載車庫、消防ホース乾燥塔の修繕撤去工事など、必要に応じ順次実施している。

また、地元自治会や消防署からの要望に基づき、消火栓の新規設置についても順次進めている。

市民の安全・安心を守るため、今後も激甚化・頻発化する災害に適切に対応するため消防・防災対策の拡充に努めていく。

教育費

◎学力向上プロジェクト事業

【質疑】 国語科教育の充実に向けた授業づくり研修の事業の詳細と成果は。

【答弁】 本市教育アドバイザーによる市内教員対象の研修会を令和5年11月に4日間実施したもので、「全国学力・学習状況調査の理解と学習指導の改善充実を図ること」を目的に、講話による研修を行なった。

また、福岡小学校、福岡中学校、大平小学校を会場に、国語科の授業参観を行い、授業者への指導・助言の機会としたほか、教育アドバイザーによる模範授業と授業の解説、授業づくりに対する講話を実施した。

成果として、調査結果の活用や、課題としている分野の指導を見直す機会となり、国語科における授業づくりの理解が図られ、日々の授業改善につながった。

◎図書館運営状況

【質疑】 電子図書館の蔵書数、成果、今後の課題は。

【答弁】 令和6年3月31日現在の蔵書数は1187点で、令和4年度の実績と比較する

と、有効登録者数、ログイン回数、貸出数、閲覧数ともに、30%以上増加している。

電子図書館のコンテンツのライセンスが期限切れとなった資料は入れ替え等が必要であるが、昨今の物価上昇に伴い、ライセンス料も上昇して、蔵書数の維持増加が難しくなることが懸念される。

特別会計

国民健康保険事業

【質疑】 人間ドックの助成額が、令和4年度から約1千万円減少了理由は。

【答弁】 令和4年度までは、人間ドック費用3万9600円に対し、人間ドックの助成対象年齢満40歳から満74歳のうち、満40歳、45歳、50歳、55歳、60歳の方は、自己負担額が5千円、それ以外の方は1万円となるよう助成していたが、令和5年度からは、助成額を一律1万円に減額した。

また、令和4年度の申請者数

404人から令和5年度は195人に減少したことから、約1千万円の減額となった。

【質疑】 特定健康診査受診率の目標を達成して、医療費が抑制されたのか。

【答弁】 令和5年度の特定健康診査の受診率は43%で、目標値40.5%を達成できたが、特定健康診査による病気の早期発見により、病院受診が増える場合もあることから、目標値達成により医療費が抑制されたとは言えない。

【質疑】 医療費通知が医療費削減の動機づけになるような、特別な取り組みを行なっているか。

【答弁】 特別な取り組みとして、重複服薬予防の通知を行なっている。通知後はレシートで処方状況を確認し、薬の重複が改善されているか確認している。

【質疑】 令和5年度決算において、健全運営がなされている状況と考えるか。

【答弁】 前年度からの繰越金や基金からの繰入金を除いた実質収支は赤字であることから、厳しい財政状況にあり、健全運営とは言えない。

介護保険事業

【質疑】 高齢者権利擁護に関する相談数が増加している要因と状況は。

【答弁】 1人暮らしの高齢者世帯等の増加に伴い、解決が困難なケースが増加していること、市民の権利擁護に対する意識・関心が高まってきていること、地域包括支援センターが相談窓口であるとの周知が浸透してきたことなどが増加の一因と考える。

虐待の相談は、心理的、経済的虐待が増加傾向にあり、また、成年後見の相談や親族の減少、関係性の希薄さにより、身元保証人の問題で施設入所や住み替えができないなどの相談が増えている。